

香川県観音寺市（国内 15 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る 疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 11 月 23 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、3 例目農場から約 1.3km、14 例目農場から約 3 km 離れた平野部に位置し、周囲は田畑に囲まれている。農場主によると、当該農場近くの川にはカモ類をよく見かけるとのこと。
- ② 当該農場には低床式の開放鶏舎が 1 棟あり、内部は壁で 2 区画に分けられていたが、集卵場所を共有していた。各区画には A ライン型 3 段ケージ 2 列とその両側にひな壇ケージがあり、発生時、両区画で採卵鶏が飼養されていた。
- ③ 当該農場から約 500m 及び 300m の地点に疫学関連農場 2 農場が位置しており、発生時はそれぞれの農場で採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 3 例目の発生に伴い 11 月 1 日及び 15 日に実施した周辺農場検査において、陰性が確認されていた。
- ② 農場主によると、発生区画（通報時 302 日齢）における 11 月 1 日以降の 1 日当たりの死亡は 0～2 羽で推移していた。11 月 22 日朝の健康観察時に、死亡鶏 4 羽のうち 3 羽が鶏舎入口付近の隣接する 4 ケージ中 3 ケージで確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では、作業従事者として、農場主及び従業員 1 名（飼養管理者）が飼養管理及び集卵作業を行っているほか、パート職員 4 名が集卵作業を行っている。飼養管理を行う 2 名は、疫学関連農場 2 農場でも飼養管理及び集卵作業を行っていた。
- ② 農場主又は従業員は、毎日 3 農場において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏を回収していた。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場では衛生管理区域の境界にコーンが一部設置されていた。農場主によると、衛生管理区域入口に蓄圧式噴霧器が設置されており、農場間移動用の車両、鶏糞運搬車両、パート職員の車両等については、入退場時に蓄圧式噴霧器で消毒を行っていたが、その他の車両については、消毒は各訪問業者に任せていたとのこと。
- ② 農場主によると、衛生管理区域入口には 2～3 日に 1 回、鶏舎周囲及び農場内通路には週 1 回程度消石灰を散布していたとのこと。
- ③ 農場主によると、作業従事者は自宅で農場用衣服及び靴を着用し、衛生管理区域に入る際の衣服・靴の交換、手指消毒等は実施していなかったとのこと。また、飼養管理者は発生農場及び疫学関連農場において、共通の農場用作業着及び長靴を着用していたとのこと。
- ④ 農場主によると、作業従事者が鶏舎に入る際は、鶏舎入口外の踏込み消毒槽で靴底消毒を行い、鶏舎内の入口付近で長靴の交換、手指消毒及び手袋の着用を行っているとのことだが、鶏舎内の集卵場所では、鶏舎専用長靴に交換せず作業する時があるとのこと。また、鶏舎入口での長靴の交換は徹底されていなかった。
- ⑤ 農場主によると、外来者が衛生管理区域及び鶏舎に入る際には、着替え、靴底消毒、長靴の履き替え、手指消毒等は徹底されていなかったとのこと。
- ⑥ 発生鶏舎の壁面には、金網（マス目は約 3 × 4 cm）、ロールカーテン、防鳥ネット（マス目は約 1.5 × 1.5 cm）が設置されていた。農場主によると、発生があった時期

ではロールカーテンは夜間を含め完全に閉じることはなかったとのこと。

- ⑦ 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ⑧ 農場主によると、飼養鶏への給与水は汲み上げた井戸水を使用しており、日常的な消毒は実施していないとのこと。
- ⑨ 農場主によると、鶏糞は定期的に重機で除去し、農場から約1 km 地点にある鶏糞一時保管場所又は疫学関連農場の堆肥舎で保管後、週6日程度系列農場の堆肥処理場に搬出しているとのこと。今回の発生鶏群については、近隣での鳥インフルエンザの発生を受けて、鶏糞の排出を実施していなかった。
- ⑩ 農場主によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、鶏糞一時保管場所にある死鳥処理装置まで毎日運搬し、処理しているとのこと。
- ⑪ 区画ごとのオールイン・オールアウトを行っており、空舎期間を30日程度設け、オールアウト後は区画内の除糞と清掃・消毒を行っていたとのこと。
- ⑫ 疫学関連農場を含む3農場で、車両や重機は共通であった。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 調査時、鶏舎壁面の金網やロールカーテンには大きな破損は認められなかった。発生区画の天井及び壁面には隙間が確認され、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。
- ② 農場主によると、農場内にネコ、カラスをよく見かけるとのこと。また、鶏舎内でネズミ、スズメを見かけるとのこと。ネズミ対策として殺鼠剤の設置を行っているとのこと。
- ③ 調査時、発生鶏舎内では野生動物を見かけなかったが、疫学関連農場の鶏舎内において、ネズミ及びスズメを確認した。

(以上)